

表 ドイツにおける浮体式LNG貯蔵・再ガス化設備(FSRU)の導入計画

(単位:億立方メートル/年)

州	都市名	運営者	稼働予定	再ガス化容量
ニーダーザクセン	ウィルヘルムスハーフェン	ユニパー	2022年末	50
シュレスビヒ・ホルシュタイン	ブルンスビュッテル	RWE	2022年末	50(注1)
ニーダーザクセン	シュターデ	ユニパーまたはRWE	2023年末	50(注2)
メクレンブルク=フォアポンメルン	ルブミン	ユニパーまたはRWE	早ければ2023年末	50(注2)
メクレンブルク=フォアポンメルン	ルブミン	民間コンソーシアム	2022年末	未発表

(注1)再ガス化容量は2022年冬には年間50億立方メートルのペースを見込む。その後ガスパイプラインのネットワーク容量の関係で、2023年夏に減少し、年間平均の再ガス化容量は35億立方メートルになる見込み。55キロメートルの新たなガスパイプラインを敷設後、2023年末からは年間を通して50億立方メートルの再ガス化が可能となる。

(注2)接続するパイプラインにも左右されるため、現在調整中。

(出所)経済・気候保護省および各企業のホームページからジェトロ作成